

1. すぐれた本との出会いを
2. 卒業生からのメッセージ
3. 読書感想文コンクールについて
4. 心に残る一冊の本
5. 企業の国際化
6. 図書館統計等

奈良高専 図書館だより

1992年7月 奈良工業高等専門学校図書館 発行

すぐれた本との出会いを

図書館長 田 中 富士男

学校5日制が今年度から実施され土曜日も授業が行われなくなりました。また、専攻科が設置され、奈良高専の今後に大きな影響を及ぼすことになりました。図書館では、このような状況にあわせて一層の充実改善をはかりたいと考えています。

図書館委員会は、今年度の目標として次の4点を決めました。

- ①学生の図書離れを防ぎ、生涯読書の基礎をつくる
- ②学生の学習に対する援助を強める
- ③教官の研究活動への援助を進める
- ④蔵書管理の電算化を完成し、視聴覚機材の管理利用体制をととのえる

10年に近い年月をかけて進めてきた蔵書管理の電算化が夏の蔵書点検で一応終わることになりますが、今後はその基礎の上に①、②に力をいれねばならないと考えています。

学校5日制は、図書館の役割を今まで以上に大きくしています。土日の連休は、独習（自宅学習）の時間や余暇を増やします。学生諸君は授業での教官の指導とあわせて自分で計画して学習をすすめることが今まで以上に必要となります。その場合、思い切って自分の関心・興味に沿って自分の知識の領域を広めてほしいものです。ある人は文学作品に親しんで自分の感性を広げ、ある人は自然科学の基礎や歴史を学んで学習のバックグラウンドを広めることもできるでしょう。

私自身のことをいえば、私は学生時代から映画をよくみましたが、当時時間をかけて読破したサドウールの「世界映画史」が私の鑑賞領域を広げるのに役立ったことを忘れることができません。アメリカ映画ばかり見ていた私は、この本によってそれ以外の国の映画を見る目が開かれたのです。その頃は外国映画といえばアメリカ映画で、少数のフランス映画が見られる位でした。いまでは、英、伊、独はもちろんアジア諸国、中国、台湾、香港、朝鮮などの映画も見ることができます。サドウールの本の影響は未だに続いています。

一冊のすぐれた本との出会いは人の一生を左右します。学生諸君がこの学校に在学中にすぐれた読書の機会をぜひつかんでほしいものです。

図書館は8月3日(月)～20日(木)まで蔵書点検のため閉館の予定です。

卒業生からのメッセージ

私における図書館利用法

電気工学科 大門 健 三

私にとって高専の5年間で、教室の次に最も利用していた所は図書館です。学校に来ていた日の3分の2ぐらいは、図書館を利用していました。しかしながら、私が図書館にいる所を目撃した人はあまりいないのではないかと思います。(見知らぬ他人の行動を、いちいち憶えているわけありませんが。)図書館においてあまり目撃されない私ですが、なぜそんなに利用できたのでしょうか。それは、私がとても読書好きだからです。私の図書館利用法の第一項目は、「本を借りるor返却する」です。この2つの行動は、大抵一緒に行なわれます。

私は、人に言わせると、『異常に』本を読むのが速いそうです。文庫本サイズだと約2時間、新書などであっても約3時間もあれば読破できます。つまり、授業中に本を読んでいると(あまり良い行動とは言えませんが。)1日で1冊~2冊は、軽く読んでしまうわけです。こんな状況で本を買っていた日には、財布の中味は一瞬にして無くなってしまいます。そこで、本屋で購入する事は、ファンタジーなど図書館に置いていない本に限り、月1冊~2冊程度購入するようにしています。また、ミステリーなども、家族が購入する本(月4冊から5冊程度)に頼っています。それでは、私は図書館でどんな種類の本を借りているかと言いますと、大抵歴史小説、特に戦国時代のもを借りています。この読破量には、自分で言うのも何ですが、大変目を見はるようなものがあります。また、他にも星新一などのショートショートSFや、世界名作童話などという、少しはざかしくなるようなものまで借りていました。

話が少し横道にそれてしまったので戻します。さて、私の図書館利用法の第二項目は、皆さんにも憶えがあると思いますが、まんがを読んだり、借りたりするためです。我が高専図書館にはまんがが多数置いてあります。「火の鳥」を始めとして、多々の本がありますが、私はこれをすべて読

破しました。中でも、「アドルフに告ぐ」や「ブラック・ジャック」、「陽だまりの樹」などは、普通のまんがとは一味も二味も違う、大変すばらしい内容で、まだ読んでいない人には、たかがまんがなどと思わず、是非とも読んで欲しい本です。

次に第三項目ですが、これは皆さん御利用の、実験のレポート用、卒研用の参考文献などです。

この点では、私はあまり利用することが少なく、ほとんど他人のコピーで済ませていたため、あまりコメントすることがありませんので省略します。

他にもAV機器による、映画鑑賞があります。この点では、導入するのが遅かったことと、1本全部見られる時間がなかなか得られないという、2つの理由であまり利用できませんでしたが、作品のリストを見ると、往年の名作の映画が目白押しで、もっと利用すれば良かったと、今さらながら後悔しています。

最後に、本好きでも本ざらいな人でも、誰でも簡単に利用できる方法について述べます。しかしながら、これはあまりおすすめできる方法とは言えず、私も行なったことはありません。

まず一番簡単なものとして、寝ることがあります。図書館は、とても静かで、暑すぎず、寒すぎることもなく、大変心地良い場所です。寝るにはとても良い場所と言えるでしょう。

他にも、ひまつぶしというものもあります。大抵の人は、ひまつぶしには談話室を利用しますが、図書館も結構良いものです。いろいろな雑誌もありますし、まんがや映画のビデオもあります。さわがしい談話室でなく、静かな図書館で過ごすというのも、心が落ち着いて良いものなので、一度利用してはいかがでしょうか。

様々な利用方法を書いてきましたが、私の言いたいことは、図書館をもっと利用してほしいということです。図書館を利用している学生は、ほぼ一部に限られており、大抵の人は見向きもしません。たとえ寝るためでもいいから、まずは図書館に足を運んで下さい。専門書から一般書まで豊富にそろっている、大変利用価値のある場所です。思う存分寝た後に、ぐるっと館内を回ってみると、絶対に自分の興味のある本が、最低1冊は置いてあります。その1冊が、きっと皆さんと図書館との

かけ橋になります。高専5年間で、図書館をまともにも利用した記憶がないという、悲しいことのないように、どんどん利用して下さい。

本を読もう！

情報工学科 安藤 正

私が奈良高専に入学して間もない頃は、話し相手がいなかったので、昼休みには必ず図書館に行っていました。しかしその後、友達の数が増えるにつれて図書館に行く回数が減っていったのですが、夏休み以後は、中学の時は図書館に2、3度しか行ったことがなかった私が頻繁に図書館に行くようになりました。というのは、読書感想文コンクールの課題図書の一つ『七瀬ふたたび』（筒井康隆著）を読んで、すごく感動したから、他にも私を感動させてくれる本を探すためでした。

その方法として、私は気に入った題名の本があったら、まず最初に本の後ろにある貸出期限の表を見ました。日付スタンプの数が多い＝たくさんの人がその本を借りた＝人気がある＝読みやすい本だから、その本を早速カウンターに持っていきました。これを繰り返しているうちに自分の好きな著者が発見でき、その著者が書いた他の本も読むようになり、だんだんと読書が好きになっていきました。

私は個人的に、“筒井康隆”や“赤川次郎”、そして“シドニィ・シェルダン”の本が好きです。特に“シドニィ・シェルダン”の本は広告に書いてある通り、読み始めたら途中で止めることができなくなるほどおもしろいので、是非一度読んで下さい。

本を読めば、専門的な知識が広く得られますし、他人が経験したことを知ることもできます。また、有名人が書いた本は、テレビを見ているだけではわからないような、その人の性格や考え方等を発見することができます。さらに、小説の中には映画化されたものもたくさんあり、一度見ただけでは話の内容を理解できないような映画でも、本を読んだ後でその映画を見れば、話についていけると思います。その逆の場合でも、映画を見て、だいたいの内容がわかっているれば、本がずっと読みやすくなると思います。

高専では、高学年になるにつれて、専門科目が

増えて授業の内容がむずかしくなり、レポートの提出も増えていきます。だから、低学年のうちに読書に時間をさいて、生涯を通じて繰り返し読んでも飽きないような本を、たくさん見つけて下さい。

本を読む＋考える＝思考力

情報工学科 大西 祐史

図書館はよく利用していましたし、図書館員の人も顔なじみですから、卒業するときに「図書館だよりに書いてくれない」と頼まれるのは予想していました。それで今、お世話になったお礼のつもりで、この文章を書いています。

私はもともと本好きでしたし、本は買わずに図書館から借りて読むというほうなので、一年生のときからほとんど毎日図書館に行っていました。三年生の頃から定期試験のときに勉強する場所として図書館を利用するようになりましたが、私が図書館を利用するのはやっぱり本を借りるというのが最も多く、5年間で借りた本の冊数は400冊ぐらいにはなったと思います。このうちのほとんどはコンピュータに関する専門書と歴史小説であり、私が今持っているコンピュータと歴史に関する知識もほとんどこれらの図書館の本から得たものです。

私の場合、読んだ本のほとんどが自分の好きなことだったので、今でも読んで得た知識の半分ぐらいは覚えていますが、それでもだんだん忘れていくだろうと思います。これらの記憶がいずれすべて消え去るのか、それとも少しは残るのかわかりませんが、私はすべて消え去ってもいいと考えています。

以前に次のようなことを読んだことがあります。「本を読むのは、穴のあいたバケツに水を注ぐようなものだ。本を読むと知識が頭に入るけれども、穴のあいたバケツに水を入れても、その水はバケツに残らないように、その知識もだんだん忘れ去って結局残らない。しかし、バケツに水を注ぎ続けると、そのうちバケツの内側に水あかがつく。この水あかが貴重なんだ。」

私にはまだ「水あか」が何に相当するのかわかりません。しかし、本を読むとき自分で考えたり思ったりしたことはかなり後でも鮮

明に記憶に残っているのです、水あかとはこれではなかろうかと考えています。それで私は、本を読んでその内容を記憶することではなく、読んだ内容について考えることが重要なのだと思います。

最近、大学や高校の入試問題で「思考力をみる問題」という言葉をよく聞きます。試験をする側は、どうすれば思考力、つまり考える力のある学生をとれるかと苦心しているようです。とは言っても、入試が依然暗記中心の問題であることには変わりはないように見えます。つまり、受験勉強というのは、記憶力の訓練にはなっても、思考力を磨くものとはならないということです（と私は考えていますが、本当はどうか知りません）。

しかし幸いにも高専では、就職する人は5年間受験勉強をしなくてもすみますし、編入学を目ざす人も一般の大学入試の受験勉強ほど記憶力を酷使しなくても合格することができます。高専にいる間は記憶のための勉強というのをほとんどしないでいいわけですから、思考力を磨くということに努力していただきたいと思います。思考力を磨く1つの方法として読書をおすすめします。つまり、受験勉強のように本の内容を記憶するのではなく、本の内容について考えるということです。

だからといって、何もかたくるしい本を読まなければいけないというわけではありません。自分がおもしろそうだという本を少しずつでも読んでほしいと思います。最近、私は「銀河英雄伝説」という小説を読みました。最初のうちは単なるSFかとも思いましたが、後のほうになって専制政治と民主共和制についてのヤンの悩みを読んで考えさせられました。ですから、内容は何でもいいですからとにかく読んでみてください。そしてその内容について少しでも考えてください。そうするうちに考える力がつくと思います。

本を買うのがめんどくさいと思われる方はどうぞ高専図書館を利用してください。図書館員の人も仕事が増えるのを期待しておられます(?)ので、考えるねたとしての本を借りて読んでほしいと思います。

高専生活と図書室

化学工学科 齊木 将人

高専生活は5年間。その長いような短いような

時の中では図書室とぼくが関わりあってきた時間は短いかも知れない。しかし、ぼくの高専での成績に図書室が大きく貢献してくれたことは確かです。

ぼくがこの奈良高専に入学したのはもう5年前のことです。当然ですがまだ15のガキでした。そんなガキがまず寮という大きな壁にぶち当たりました。寮はガキにとってあまりにもインパクトが強く、「これはとんでもない所に来たな」という気持ちでいっぱいでした。みなさんも知っていることと思いますが寮という所は一年生にとってはすごく敵しい所なのです。そのため寮を逃げるかのごとく図書室へ本を読みに行っていました。当時は雑誌を中心に読んでいました。それと寮では一年生はテレビを見ることができないので情報収集のため新聞もよく読んでいました。また今の化学科は違うようですが、僕たちは前期から実験があったので入学して間もないころからレポートを書くための本を借りによく足を運んでいました。ぼくはクラブの関係もあって一年生の間は自習時間やクラブのない日以外は図書室に長居することができず必要な本だけを借りて帰ることが多かったです。けれどもその短い時間でさえも図書室は、ぼくにとっては気分転換の場所であり、有意義な時間を過ごせる場所でもありました。

図書室のおかげ?か、何事もなく無事二年に進級し、寮から開放されたため精神的には随分楽になりました。そのため図書室の利用の仕方もし少しずつ変わってきました。気分転換をするよりも、自分の興味のある本を探してどんどん読むようになりました。クラブも自分達が、中心になるようになってからは技術的な本をよく読むようになりました。そのほか同じトレーニングをするなら人より効果的に筋力をつけたいという願いから今というスポーツ栄養学の本を読むようになりました。その本から栄養補給の大事さを知り、寮飯ではバランスはとれているけれども絶対量が不足していると考えようになりました。この頃から牛乳を買い、プロテインと一緒に飲むようになりました。(プロテインは薬物ではありません。スポーツ店で売っています。)とにかく、トレーニング後の休養と栄養補給の関係、筋力のつくメカニズム…など興味のある方は図書室へと言いたいのですが今でも冊数が少ないのが残念です。しかしどの本も内容的には大差ないので特に体育系のクラブに属

している方、一度御覧になってはいかがでしょうか。話しを元に戻しますが、二年の時の図書室はレポートはもちろんクラブを中心とした本を借りるために利用していました。野球がうまくなるのを理論面から支えてくれていました。悔いのない野球人生がおくれた原因の1つであると考えています。

3～5年の間、特にクラブを引退してすぐの頃は本を読む間がないほど高専生活の中で最も働いていました。つまり、バイトに走っていたのです。そのためレポートのときとテスト前以外はほとんど図書室を利用しなくなりました。時間つぶしに雑誌を読んだり、雑談の場所としたり、夏なら涼みに行くといった程度でした。この頃なぜもっといろんな本を読まなかったのかと後悔するほど図書室つまり読書とは関わりのない時期でした。しかし5年の途中、進路が大学編入と決まり、単位認定試験があるとわかってからは大学指定の教科書を探すために図書室通いとなりました。あの検索機を駆使して図書の係の人と一緒に探しました。結局は見つからなくて自分で買うことになったのですが図書の係の人が気の毒に思っただけ必要な本を手配してくれたのです。本当に大助かりでした。(図書の方々は親切なんですよ！)

最後にぼくのために骨をおってくれた図書の方々のためにちょっと？話しを大きく書いたかもしれませんが。しかしぼくにとって図書室がどれほど貴重な存在であったかはわかってもらえたと思います。それから単に図書室を利用するだけでは本を借りる時しか係の人と接することはありません。それでは図書室の本当の良さはわからないと思います。係の方々に自分から接していけば、快く対応してくれることでしょう。そうすることによって違った側面から図書室をみる事ができるでしょう。とにかく親切で素敵な図書の係の人達とともに素晴らしい図書室を築いていって下さい。

「無 題」

化学工学科 羽原登世

図書室についての感想を何か書く、ということをお願いされ、久しぶりに一年生からの高専生活をしみじみと振り返ってみました。本当に、気付いてみれば何と短かったことよ、と想います。

一年生でこの学校に入学する前、私は中学の友人に宣言していたことがありました。それは「5年間で図書室の本を出来るだけ読み尽くす。」などという何とも無謀なものでしたが、それぐらい私は読書が好きで、おかげで小学校低学年で既に眼鏡をかけることを余儀なくされていたぐらいでした。

ともあれ、希望を持って入学したわけですが、しかし図書室に足を入れた時、あまりの専門書の多さにガクゼンとなってしまい、そしてクラブ活動の方へ気をとられ、レポートを書く時以外は殆ど御無沙汰となってしまいました。……それから学年が進み、5年生となった頃、何の気なしに図書室へ行って本棚を眺めた時、読んでみたいと思う様な本がとても沢山あることに気が付き、そうなるともう、読まないで気が済まなくなる私は気が狂った様に借り始めました。私は昔から鍛えた(?)こともあって異常に本を読むのが速く、他人に言わせると気持ちが悪そうで、文庫本の内容の軽いものなら4日で20冊程度なら平気で読みました。だから私には本の量が半端な所では満足できないので、その点、図書室は見事に私の欲求に答えてくれたといえます。

私の本の選び方というのは、ざっと本の背表紙を眺め、心に“びん”とくるものを探す、又は何か賞をとったものや図書室の入口付近に置いてある新刊本を見る、そして、もう一つ、自分の好きなジャンルや好きな作家のものを読む、の大きくわけて3つになります。まず一つめは“カン”だといえます。何となく面白そうなものというのはタイトルや雰囲気は何となくわかってくるものだからです。2つめは、賞を取ってるくらいだから面白くないわけがない、という考えからで、新刊本も同じく、図書室に新しく入ってくるわけだからきっと何かあるのだらう、という気持ちを持っています。3つめは、これはもう至極当たり前のことで、因みに私の好きなジャンルもしくは作家は、大体何でも読みますがあえていうとエッセイや時代小説などで、椎名誠さん、藤沢周平さん、村上春樹さんなどが好きです。

図書室の利用価値、というと、やはり“買えない高い本が読める”というのと、“買うほどのものではないがちょっと読んでみたいと思う本が読める”というのと何をおいても専門図書が沢山あるということだと思えます。そしてこれは、他

人にかなり迷惑をかける可能性もありますが、2週間おきにきちんと借り直しにいけば、ほぼ半永久的に（とは言ってもまあ一年間）一冊の本を独占することができる、という小ワザも使えます。私はこの手を5年生での卒研の資料用の本にフルに使用させて頂きました。

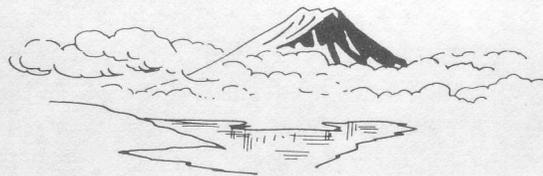
最近是新刊の雑誌もすぐ入るようになり、本の種類も沢山増え、貸し出しも便利になりました。大変喜ばしいことだと思います。何も、私の様に気狂いみたいな読み方は勧めはしませんが、気が向いた時に何か一冊、というようにその人なりの図書室の利用価値を見つけて欲しいと思います。冷暖房もきちんと入るので比較的すごし易く、その点からでもお勧めできます。

働き出したらきっとあまり本を読むことは出来なくなるでしょう。高専生活の中で、沢山本を読む機会があったということはきっと良かったと思うだろうと思います。皆さんも、もし暇な時間ができたら、何か一冊読んでみることをお勧めします。

ちなみに私の最後の記録は栗本薫のグインサーガを10日ほどで読破したことでした。

寄贈図書リスト

(書名)	(寄贈者名)
○システム・インテグレーター DEC	TBSブリタニカ
○コミック・武田薬品 石森プロ・石川森彦著	科学技術教育協会 弘文出版
○超神霊 隈本 確 (著)	本校名誉教授三鼓 慶藏氏
○ヨセフスーその人と時代ー 秦剛平他訳	〃
○神への然り、カイザルへの 否 山下慶親訳	本校卒業生 石川正年氏
○天体写真集 星芒 飛鳥天文同好会	電気事業連合会広報部
○いま日本のエネルギーを 考えるⅢ 石井威望編	本校教官多喜正城氏
○コンピュータと通信 多喜正城他著	



図書館委員会・学生図書委員会 活動スタート!

学生図書委員会メンバー

図書館委員会		
館長		田中(木)
図書部会	視聴覚部会	研究紀要部会
○鈴木 (月)	○堀内 (火)	○有間 (火)
片山 (月)	福寫 (木)	片山 (月)
福寫 (木)	土井 (水)	木村伊 (金)
土井 (水)	鈴木 (月)	小沢 (水)
末 (金)	末 (金)	末 (金)

○は部会長
()の中は担当曜日

クラス 学年	M A	MB・S	E	I	C
1	逸崎 工	宮本清人	小林龍爾	横洲 竜健 和住	今村美紀
2	首藤竜哉	村井祐子	上川康光	山本 豊	小菅暁生
3	辻元秀和	中居亜子	森 利勝	曾我 篤	上村秀之
4	藤本周作	原田陽一	山口順一	高木克泰	西川恭世
5	田口 努	楠 欣宏	富山貴宏	伊藤香代	今中 美名子

平成4年度 読書感想文コンクールについて

今年も、夏休み恒例の読書感想文コンクールを、図書館委員会と国語科の共催で行います。先生方から推せんされた図書の中から、以下の30冊をリストに挙げました。1、2年生の選択の目安として☆印をつけましたが、いずれの学年も他から自由に選んでよいことになっています。

図書館カウンターに並べておきますので、よく考えて選んで下さい。

リ ス ト

<文学作品の部>

☆若きウェルテルの悩み	ゲ ー テ	旺文社 ^他
☆黒パン俘虜記	胡桃沢耕史	文 春
☆どくとるマンボウ青春記	北 杜 夫	中 公
☆四万十川	笹 山 久 三	河 出
☆変身	カ フ カ	角 川
火垂るの墓	野 坂 昭 如	新 潮
長距離走者の孤独	シ リ ト ー	〃
車輪の下	ヘ ッ セ	〃
地下生活者の手記	ドフトエフスキー	〃
ボストンの人々	ジェイムス	中 公
銀河鉄道の夜	宮 沢 賢 治	岩 波 ^他
モーパッサン短編集	モーパッサン	新 潮
ウホッホ探検隊	千 刈 あ が た	福 武
国語入試問題必勝法	清 水 義 範	講 談 社
夢十夜・硝子戸の中	夏 目 漱 石	岩 波

<文学作品以外の部>

☆匠の時代	内 橋 克 人	講 談 社
☆二重らせん	ワ ト ソ ン	〃
☆情報化社会	林 雄 二 郎	〃
☆C. W. ニコルの海洋記	ニ コ ル	〃
☆生きることの意味	高 史 明	ちくま文庫
わが友本田宗一郎	井 深 大	こま書房
枕詞のヒミツ	李 寧 熙	文 春
日本人の質問	キ ー ン	朝 日
日本の弓術	ヘ リ ゲ ン	岩 波
奈良の寺々	太 田 博 太 郎	岩波ジュニア
ガロアの生涯	インフェルト	日本評論社
電脳都市	坂 村 健	アスキー
宇宙からの帰還	立 花 隆	中 公
アイヌの碑	菅 野 茂	朝 日
熱い街で死んだ少女	ク ッ ク	文 春

図書館からのお知らせ

夏期休業中、図書館の開館時間等は以下のようになります。

○開館時間 平 日 8:30-17:00
土曜日 閉 館

※8月3日(月)-20(木)は、蔵書点検のため閉館します。
○貸出冊数 6冊

長い夏期休業中、大いに読書に励んで下さい。



心に残る一冊の本 —あなたにも薦めたい— (その3)

情報化時代と言われる現代において、情報と知識の価値はますます高まっています。それと同時に、読書の必要性も高まり、我々は多様な範囲の本を数多く、しかも、短時間にその大意をつかんで読むように求められているように思います。

しかし、その一方で、我々は読書量の多少や時間の長短に関係なく、自分の人間性を高め、自分の人生の方向性を見定めるために、ある本を見つけ出し、むさぼるようにその本を読み尽くさなければならぬ時期があるものです。大多数の人々にとっては、その時期は青春時代と重なります。青春時代の真只中にある高専生にとって、そのような存在価値を持つ本となるように、次の先生方に心に残る『一冊の本』を選んで頂きました。

『槍ヶ岳開山』

新田次郎 (著) 文芸春秋

北アルプスの連邦の南部、四方の岩峰を従えそびえ立つ岳、それが槍ヶ岳 (標高3180m) である。この岳の絶頂を初めて極めたのは、念仏僧播隆 (ばんりゅう) と案内人中田又重郎であった。時に文政11年 (1928年) 7月28日申の刻 (午後4時) のことである。播隆は自分の犯した罪から開放されるために出家し、ただひたすら念仏を唱えることで涅槃の境地に達しようとした。彼が一心不乱に念仏を唱えるために行ったのが、登山である。文政6年の笠ヶ岳再興に次いで彼が行った仏行、それが槍ヶ岳開山であった。出家してから15年、槍ヶ岳山頂で彼が見たものは、阿弥陀如来の後來迎 (ブロッケン現象=霧の粒子に環状の虹ができ、その中に自分自身の影が映る現象) であった。

私自身2度槍ヶ岳山頂に立ちましたが、2度とも悪天候のためにブロッケン現象を見ることはできませんでした。

(電子制御工学科 西田 茂生)

『ご冗談でしょう、ファインマンさん』I・II

R.P. ファインマン (著) 岩波書店

ご存知の人も多いと思うが、ファインマン博士は1959年にシュレディンガー、朝永振一郎とともにノーベル物理学賞を授賞した大物理学者である。この本は彼自身の体験をおもしろおかしくエッセイ風に書き下ろした自伝である。しかし、題名が「ファインマン博士」ではなく「ファインマンさん」となっていることから察しがつくように、この本は我々が想像する物理学者のイメージに反した、彼の意外な一面を覗かせてくれる。「金庫やぶりの方法」、「バーで女性におごらせる方法」、「カジノで損をしない方法」など、その良い例であろう。しかし、それらの中には、物事の真理を見極めようとする科学者としての姿が見え隠れし、その鋭い考察力には舌をまかされる。彼がこの本で最も主張しなかったのは、物事の真理を見極めることの喜び、楽しさであり、現在の日本で行われているような詰め込み教育の無意味さではなからうか。今後、科学者、工学者として道を歩んで行く学生諸君にはぜひ読んで頂きたい好著である。

(情報工学科 小澤 誠一)

『岬にての物語』

三島 由起夫 (著) 新潮社

この小説は三島由起夫の小説の中でも初期に発表されたもので、彼の少年時代の感傷が書かせた珠玉の作品であると私は思っている。

美しい岬の古い洋館、そこには静かで優雅な若い女がオルガンを弾いており、「私」は、その女と恋人らしき青年と岬の先まで散歩にでかけた。三人で隠れんぼをし、「私」が鬼の時に、美しい悲鳴とともに二人は忽然と消えた。「私」には不思議な満足感が残った。

撫子の花の咲乱れる岬での悲劇的な死の美しさ=死の美化は、後年の三島文学の萌芽であり、この小説で語られる「美しさ」は現実に生きる我々にはどうも手にいられないものであろう。

(化学工学科 末 信一朗)

企業の国際化

情報工学科 鈴木 忠二

戦前とはかく、第2次世界大戦後の混乱期を脱した日本は資源の乏しい島国と云う運命を背負い、昭和30年代から国の復興のため、工業先進国であった欧米諸国を見習い工業立国の道を一途に進まざるを得なかった。その推進役が鉄鋼や化学・繊維等の基幹産業と呼ばれていた我が国の代表的な企業群であったと記憶している。勿論、その基盤整備には電力や道路建設に係わる国家事業推進があつての事である。さらに、資源を海外に求め、加工製品を輸出する貿易工業立国へと素早く変身した裏には、国民の所得倍増を実現するための国家政策があり、造船・自動車産業も含めた重厚長大の輸出産業が一段と加速され我が国は経済大国へのシナリオを実行し、さらに昭和50年代から軽薄短小の代表格として情報産業に拘わるエレクトロニクス産業が急速に拡大し今日に至っている。そして、これらを支えた商社や生産企業群は、どのような輸出入業務のプログラムを作り、事業拡大のための国際化を実現して行つたのであろうか。すでに、言葉や文化の異なる国々との交流の仕方に関する手本は多く、コンサルティング業務も盛んに行われている。

さて、[企業は人なり]と、よく言われている。企業の国際化も企業の社員が行っている。その業務に携わる社員の理想的な条件は交流する国や業務により明確化出来るが、現実には実務経験と資質によりピンからキリまでであるように聞いている。企業の国際化形態により、業務提携型や自社販売進出型、現地生産工場型などによつても多少異なると言えるが、まず言葉であろう。これはコミュニケーションの基本である。その国の生活習慣や長い歴史を持つ文化を熟知する事と慣れることは現地に長期滞在する場合欠かせない。勿論、仕事をするための深い専門知識を身に付けないと活躍できない。

情報化社会が高度化すればする程、国際化がリアルタイム化され、より身近なものとなり、否応なしに国際化社会に置かれる。今、私達は何をして置くべきか。もう、答えは出ている。今、学校では国際化に対応した語学、歴史、文化等を学ぶ[場]と[道具]はそろっていると。あとは[やる気]のみである。

最後に、一言、世界の歴史・文化、各国の人の考え方や生き方を知ることは楽しく、自分自身を豊かにする。その上、仕事出来る喜びは最高である。夢を実現しよう。そのために、図書館を利用しよう。先生を利用しよう。将来、社会人・企業人になったら国際舞台で思う存分活躍しよう。自分のために、社会のために、企業のために。

